

# 石見銀山における散策道の現状と課題

原 裕 二

## 1. はじめに

第1・第5分科会では、標記の通り、大田市大森町周辺で現地調査を行い、石見銀山を取り巻く現状と問題点について考察した。このうち、本稿では、銀山遺跡をめぐる散策道（ハイキングコース）について述べる。

なお、石見銀山の地質や歴史については、昨年度の報告と重複するので、ここでは触れない。以下に示す資料を参考にされたい。

島根県教育委員会 <http://www2.pref.shimane.jp/ginzan/>

島根県教育委員会 <http://www.pref.shimane.jp/section/iwami/gin.home/>

大田市商工観光課 <http://ohda.iwamigin.or.jp./kankou/shokokan/home/index.html>

鹿野・宝田・牧本・土谷・豊，2001：温泉津及び江津地域の地質，地質調査所

## 2. 散策道の現状

石見銀山周辺では、かつて利用された街道が、いくつか存在し、地図やパンフレット等で紹介されている。広域的には、馬路町琴ヶ浜に至る鞆ヶ浦道や、降路坂及び湯里を経て温泉津に至る銀山街道等があるが、ここでは大森町周辺のいわゆる「柵内」を対象とする。これらは未整備区間が多く、観光客に有効に利用されているとは言い難い。以下に、それぞれのルートを歩いた感想と問題点について記載する（ルートは付図参照）。



石見銀山地域図

### (1) 銀山 - 龍源寺間歩線

最もポピュラーなルートであり、大森の町から龍源寺間歩を回って帰る観光コースである。



城上神社 鳴き龍



大森の町並み

江戸時代から残る神社仏閣や町並みと、かつて隆盛を誇った鉱山遺跡とを同時に楽しみ、何よりも平坦であることが喜ばしい。見どころが多く、風景にもめぐまれている。したがっ

て、車との共存、交通弱者対策、バリアフリー化などが課題となる。

#### (2) 山吹城線

休谷（標高160m）から牛の首を経て、山吹城跡（標高414m）に至り、龍源寺間歩に降りる山道である。かつて城に勤める士は、毎日これを往復していた。健脚を競う難コースであり、標高差100mにわたって続く石段が魅力の1つである。苦労の末たどり着いた頂上には、大森の町を眼下に見下ろせるすばらしい景色が待っている。

#### (3) 佐毘売山 - 石銀線



佐毘売山神社 林間コース



仙ノ山の西 落石危険箇所

開発初期には、良質な鉱石（福石）及び精錬した銀、生活物資をこの道を通して運搬していた。かつての「天空都市」石銀（いしがね）地区は、その中心地であり、鉱山労働者や商人によって大きな集落が形成されていた。未整備な箇所があるが、林相の変化、開発の履歴と植生の復活状況、木漏れ日の美しさを満喫するにふさわしいルートである。ただし、ルートからはずれると、切り立った断崖や危険な落石箇所に迷い込む恐れがあるため、適切な誘導と安全対策が必要である。

#### (4) 福石鉱床線

鉱山の歴史とその重みを感じるのに、最も適したルートである。鉱山稼働の初期、高品質の銀鉱石を露頭掘りした遺跡がよく残っている。南側斜面なので全体に明るく、ハイキングコースとしても気持ちがよい。ただし、敬遠されがちなのはアクセスが悪いためであり、この面での改善が望まれる。



### 3. 今後の課題

石見銀山における遺跡の特徴をまとめると次のようになる。 福石鉱床 釜屋間歩

1. 遺跡及び見どころが広範囲に点在する。
2. その遺跡の間は急峻な地形に阻まれている。
3. 遺跡が風化しやすい要因（鉱化変質の進んだ脆い地盤、竹の侵入、施設や町並みの老朽化）が多い。

遺跡の保護と  
観光開発の両立

したがって、散策道に関して今後の課題をまとめると、大きく次の3つが考えられる。

1. これらのルートをどの程度整備すべきか。
2. 各ルートの有機的な結合と活用
3. 広域ルート（仁摩町、温泉津町）との連携・整備

#### 4. 散策道に関する提案

そこで、散策道に関し、次のような事柄を提案したい。

##### (1) 林道仙ノ山線の有効利用

石銀地区を散策道の1つの拠点と見た場合、林道は業務用管理道路として有効に活用できる。あらかじめ銀山公園や観光センター、水上町側の駐車場を整備しておき、それらへの移動に利用するほか、休憩所や案内所、救護施設などの管理道路として用いる。移動方法は、小型バスで十分だが、場合によっては、電気自動車、馬車、かごなどが考えられる。

##### (2) 新ルートの開拓

現在、あまり日の目を見ていない遺跡や自然を体験するため、また、もと来た道を引き返すのは芸がないという考えから、新しい散策道の開拓を求めたい。

##### 【例1】昆布山谷～仙ノ山線

以前からあった水上町方面に抜ける街道と、仙ノ山に至る尾根筋とを複合させたルートである。現在、仙ノ山に登る尾根道は残っていないが、かつて柵がめぐらされていた範囲と一部重複するため、人の往来があったはずである。このコースの良さは、

- ・遺跡と森林環境を同時に満喫できる。
- ・眺めがよい。
- ・石銀地区や福石鉱床線とつながり、初期の銀山遺跡を一回りできる。

##### 【例2】安原谷線

福石鉱床（本谷）線から分岐するルートであり、現在はほとんど未整備である。上記の路線と連結させ、有効な活用をはかりたい。

##### 【例3】坑道の復活

過去に利用された坑道のうち、観光できるものは龍源寺間歩だけである。しかし、大森から仁摩町永久鉱山にかけての地下には、数多くの坑道が存在し、昭和18年までは通行可能であった。これらのうち散策道を結ぶルートとして、次の2つはぜひとも復活させたい。

- ・永久坑（龍源寺間歩 - 仁摩町永久鉱山）
- ・金生坑（本谷と清水谷を結ぶトロッコ線）

#### 5. 終わりに

今回は、第1・第5分科会合同で調査及び分析を行った。そして地質や建設だけでなく、様々な分野を専門とする技術者が集合することができたため、いろいろな角度から銀山を見ることができた。今後とも、石見銀山の正しい発展のため、各々の技術力を持って力を尽くしていきたい。

最後になりましたが、現地踏査をはじめ数々の情報を提供していただいた大田市銀山課の大国課長さん、三谷さんをはじめ、現地でいろいろとお世話になった方々に感謝申し上げます。

# 石見銀山周辺の散策道



